

地域産業支援委員会H29年度第3回例会議事録

2017. 12. 9 (金) 発行 地域産業支援委員会 委員長 末松正典

1. 日時 : 2017/12/2 (土) 10:30~12:50 **【今回は 2018/3/3 (土) 15時から開催予定です】**2. 場所 : 九州本部 会議室3. 出欠(敬称略) : ■赤石、□味澤、□大里、■小出、□古賀、□末松、□田口、□長野
【□出席者、■欠席者】 □西尾、□久富、□松尾、□松永、■松原、□八百屋 □山田、□吉田
<13名> <3名> (欠席委員からは決議一任を頂いています)4. 議題

1) 10:30-12:00 ; 各グループからの議題に関する報告・質疑応答・今後の活動内容の確認

(11) 第3四半期の活動報告 :

(12) 次回の業務体験紹介者の選定

2) 12:00-12:30 ; 業務体験紹介

(21) 八百屋委員からの発表と質疑応答

5. 配布資料類

資料①-0 : 地域産業支援委員会 H29年度第3回 議事

資料①-1 : H29年度のこれまでの活動経過表

資料①-2 : 技術士だより九州掲載執筆記事紹介「産総研イノベーションデー出展」

資料②-1 : 技術相談事例紹介-1 (溶接工法)

資料②-2 : 同上-2 (大分県産業科学技術センターからの依頼)

資料②-3 : アルパックからの相談対応案件

資料③-1 : 九州知財交流会参加報告 (H29年8月)

資料③-2 : 二月会参加報告 (H29年9月)

資料③-3 : 九州知財交流会参加報告 (H29年11月)

資料③-4 : 二月会参加報告 (H29年11月)

資料④-1 : 「九州・沖縄産業技術オープンデー」対応計画書

資料⑤-1 : 機械部会 Web 中継報告 (9/8、11/10)

6. 議題に対する結果(決定事項など) :6. 1 各グループのH29年度2四半期の活動報告 :

★資料①-1 : 5グループ全体の活動のまとめにより全体の活動を説明。

1) 第1グループ【文責:末松】

○資料①-2 : “技術士だより九州” 掲載執筆記事紹介「産総研イノベーションデー出展」

⇒技術士だより九州の原稿書式が次号から変更される。新様式で原稿作成(今後執筆者はご参考)。

2) 第2グループ【文責:吉田】

○ご相談事項 : CD スタッド溶接機とスタッドボルト取扱企業(大野城市)からの問合せ。CD方式スタッド方式のCDとはCapacitor Dischargeの略称になり、コンデンサーに電機エネルギーを蓄積させておき、母材の接触面を通じて瞬間的に放電させる溶接工法。

(質問1) この方式は金属接合法の分類でどの溶接に属するかを調査している。金属接合法・冶金的接合法の圧接と融接どちらに分類されるかが不明。

(質問2) CD スタッド溶接の溶接機は電気用品安全法(PSEマーク)の対象か否か調べたい。

○本問合せについては溶接の専門家として機電研の専門家へ回答依頼した。

・最終的にどう対応されたか問合せ先に聞いた回答;指導結果として対処の仕方が分かり大変助かった。

・ただ、海外での使用等の場合どうなるかという別課題もあり、今後とも相談したいとの要請があり引き続き機電研へ直接問合せいただくようお願いした。

3) 第3グループ【文責：味澤、末松、西尾】

(31) 資料③-1、③-3【知財交流会第17,20回参加報告】

★資料③-1：「配布資料」記載の通りであるが、以下に注目内容を抜粋。【文責：西尾】

- ・H29年8月28日(月)開催分。
- ・参加者：弁護士/技術士/公認会計士/中小機構/弁理士/小企業診断士、FAIS、INPIT、ISIT、福岡県中小企業振興センター/九経局 合計19名(内技術士会出席者：末松正典、西尾行生、味澤泰夫)
- ・勉強会内容：福岡県よろず支援拠点佐野賢一郎氏 森友伸和氏によるよろず相談の組織や実績、具体的支援内容を紹介された。よろず支援拠点は経営問題、起業をサポートする。技術相談も在り得るが技術者や有資格者をかかえているような様子はないので、連携して技術的相談が来た場合こちらに連絡いただけるようなルートを開拓してもいいかもしれない。

★資料③-3：「配布資料」記載の通りであるが、以下に要点を概説。【文責：味澤】

- ・(一財)知的財産研究教育財団知的財産教育協会事業部長近藤泰祐氏による「知的財産管理技能検定」の紹介である。
- ・本検定は厚生労働省所管の国家資格であり、当該財団は本検定試験機関に指定されている。
- ・検定試験の主旨は、企業・団体内で知財管理部門で活躍されておられる方や、日頃知財に関心を持っておられる方々が、どの程度のレベルなのかを国家資格として認定する事でモチベーションが上がり、又企業内の知財人材の育成にも寄与するものとしている。
- ・試験(資格)は3級・2級・1級とあり、何れも学科試験・実技試験両方に合格すれば「知的財産管理技能士(名称独占資格)」の資格が与えられる。

(32) 資料③-2、資料③-4【二月会参加報告(136回、137回)】

★資料③-2(136回二月会)；「配布資料」に記載のとおり。

テーマは「世界最先端の健康立国」で以下の講演とビジネスプランが発表された。

- 1) 『「地域未来投資促進法」について』九州経済産業局 地域経済部 企業支援課 課長 池部素子 氏
- 2) ビジネスプラン：以下の3題

①株式会社 PixSpace 代表取締役 阪本剛氏

『CT・MRI画像を利用した身体の3次元画像解析技術の開発と販売』

②株式会社 スティックスバイオテック 代表取締役 隅田 泰生 氏

『糖鎖ナノテクに基づくウイルスの超高感度技術の事業化』

③ユーネクスト株式会社 代表取締役社長 佐藤 賢吾 氏

『介護予防と機能回復で、「筋肉老人」を養成し、脱介護へ』

★資料③-4(137回二月会)；「配布資料」に記載のとおり。

テーマは「観光立国」で以下の講演とビジネスプランが発表された。

- 1) 気象庁福岡管区気象台長 弟子丸卓也氏 『空気を読んで「おもてなし」～気象ビッグデータは宝の山～』
気象情報は陸海空の情報を合わせてスパコンで計算して予測するが、実際と異なることが多い。理由は広大な面積を占める海面情報が不十分(海上にブイを浮かべての計測)、不確定による。など知見多し。
- 2) ビジネスプラン：以下の3題

①鈴田峠農園有限会社代表取締役 當麻 謙二 『都市を冷やすプロジェクト』

地球温暖化は世界共通の課題。当社が開発した『パッションフルーツ(※)の移動式緑化』の技術による、地球の温暖化対策への取組み事例を紹介。

②株式会社サーキュレーション 九州支社長 久良木 太士 『観光集客強化！国内・国外の集客もお任せ！プロ・高度人材を活用した新しい観光集客支援！人材シェアリングサービス』

外部のプロ・高度人材のこれまでのご経験・キャリア・強み・スキルを活用し、企業の課題を業務委託(変動費)・PJTベースにて解決するサービスを提供。世の中の多くの会社の「経営課題」を解決する。観光分野においては、特に観光集客強化に活用可能。

③合同会社フットパス研究所 代表社員 井澤るり子

『着地型観光商品“美里式フットパスツーリズムコース”の開発と販路開拓』

日本を再発見するイギリスのフットパスからの発展形として、フットパス普及事業（「フットパスによる地域づくり」総合コーディネーター等）、フットパス研究事業、フットパス関連商材開発事業（商品の開発・制作や映像制作等）、フットパスツーリズム事業（ツアーの企画・催行）を提案。

4) 第4グループ【文責：末松】

○資料④-1「産総研九州・沖縄産業技術オープンデー」対応計画：

★開催日程：H29年10/11（水）～10/13（金）。時間は10：00～17：00。

★会場；西日本総合展示場（小倉駅北）。

★「エコテクノ2017」と「中小企業テクノフェア in 九州2017」と併催

★技術相談は、3日間、前半（10:00～13:30）、後半（13:30～17:00）に分け、各2名で述べ10名で対応。予算は交通費総額21,720円で取り組んだ。技術相談コーナー訪問者は約20名。件数は2件。

5) 第5グループ【文責：末松】

資料⑤-1；統括本部の機械部会主催のWeb中継受講を継続。

（51）9/8（金）参加者4名。

○講演者：荒野てつ也氏（国立科学博物館、主任調査員）

○題目：「モノづくり技術遺産の編纂”エアコン”」

○内容（概要）：エアコン技術開発の流れは、求められる基本的機能に対応して革新技術が展開。執筆者は、3つの系統区分「3S」に整理して調査をまとめる。

1) スペースセーブ性技術 2) 省エネルギー性技術 3) 爽快性技術

（52）11/10（金）参加者3名。

○講演者；松井武久氏（技術経営研究センター所長）

○演題：「技術士の役割と生き甲斐」

○内容（概要）；近年、日本を取り巻く社会環境の大きな変化をリスクと捉え、「国・地方・法人・個人」のそれぞれが、変化への適切な対応が望まれる。そんな背景の中「技術士の役割、何が出来るか？」について「自分の想い」を紹介する。

・リスクを、マイナスのみでなく、プラスに転じる“もの（案件）”も含めている。

I S O 2015年版で「リスクと機会」とした点と同様の視点であり、適切な考えである。

・論文発表の件数の推移データ：アメリカが圧倒的に多く長年トップを維持。2位に近くつけていた日本は、2010年頃に中国に抜かれ、その差が拓く一方である。このデータはGDP推移に類似。

6. 2 技術業務事例紹介：

1) 八百屋委員から発表「国内中小企業海外展開支援業務の紹介」

○世界のGDPでは途上国に比率が30～40%に達するようになった。こういった状況を踏まえ、途上国に一地域である東南アジアへの海外支援の体験を紹介。

○海外支援については行政（JICA、JETRO、地方自治体）の支援事業を活用して行う。

○海外途上国支援における留意点：

・海外の状況を事前調査した上での提案が必要。

・提案書には、課題解決+ビジネスを盛り込む。

・コンサルは、海外進出する企業が提案書作成するにあたり、そのアシストを行う。また、本業で多忙な企業担当者を支援する観点から、プロジェクトの実施や運営全般や、さらにプロジェクトマネージャーも担うことがある。

○支援経験事例として、廃棄物海面埋め立て処分場の紹介を受けた。

2) 次回（H30年3/3の第4回例会）：松原委員から紹介いただく。

以上